

はじめに

四條 知恵

広島平和研究所は、研究成果を広く市民のみなさまに伝えるため、戦争や平和にかかわる諸問題をテーマに、継続して連続市民講座や国際シンポジウム、研究フォーラムなどを開催してきました。また、二〇一四年度より、これらの内容を分かりやすく伝え、現代世界における平和構築への問題提起とするため、この小冊子シリーズ「広島平和研究所ブックレット」を刊行しております。

第九巻である本書『戦争の記憶——ヒロシマ／ナガサキの空白』は、二〇二二年度にオンラインで行われた同タイトルのシンポジウム「戦争の記憶——ヒロシマ／ナガサキの空白」(二〇二二年七月一八日開催)、連続市民講座「平和文化を育むために」(二〇二二年一月

一八日から一二月二〇日まで配信)での講演・報告をもとに、報告者・講演者に改めて執筆していただいた七本の原稿を収録しています。

第I部は、「戦争の記憶——ヒロシマ/ナガサキの空白」をテーマとして、「原爆被害の記憶の継承——中国新聞の連載「ヒロシマの空白」の試み」(第1章 水川恭輔)、「写真は語りかける」(第2章 林田光弘)、「被爆体験証言」と語られないもの」(第3章 四條知恵)の三編を収録しています。原爆被害は、戦争の世紀と呼ばれる二〇世紀のなかでも、人々が住む都市に対して核攻撃が行われた歴史的な戦争被害の一つです。しかしながら、多くの体験が語られてきた一方で、いまだに明らかになっていないことも数多くあり、埋めがたい空白を埋めようとする努力が続けられています。第I部では、報道や学問の現場で現在行われているこれらの取り組みを紹介しつつ、未来へ向けてどのように原爆被害を語り継いでいくのかを、改めて考えています。

第II部には、「平和文化を育むために」というテーマで、「被爆の記憶・継承活動と国際政治」(第4章 大芝亮)、「平和と文化——ドイツの事例から」(第5章 竹本真希子)、「核兵器禁止条約の時代」の軍縮教育」(第6章 中村桂子)、「平和首長会議と平和文化」(第7章 小泉崇)の四編を収録しました。平和を育む文化について、平和の理論や平和思想、次世代

に向けた平和教育、平和に関する政策的な取り組みなどの観点から、各分野の専門家が分
かりやすく解説をしています。

本書が手に取っていたただいたみなさまにとって戦争の記憶や平和にかかわる諸問題をよ
り深く考えるきっかけとなることを願っております。